

諦めなければ いつか必ず 夢は叶う

北京五輪 シンクロナイズドスイミング 銅メダリスト
鈴木 絵美子 さん

PROFILE

【すずき えみこ】1981年、さいたま生まれ・在住。04年ミキハウス入社。04年アテネ五輪チーム銀メダル、06年日本選手権ソロ1位・デュエット1位、08年北京五輪デュエット銅メダル。08年9月引退を表明



2008年北京五輪のシンクロナイズドスイミング（以下、シンクロ）という日本代表主将、またデュエットでは銅メダルに輝いた鈴木絵美子さん。華やかな水着姿のときは、アスリートとしての強さを感じるが、私服姿のときは、礼儀正しい落ち着いた女性というイメージ。まずは水泳との出会いから尋ねてみた。

「2人の兄がスイミングスクールに通っていたので、私も4歳から習い始めました。小学3年生のときにシンクロと初めて出会って、競泳とは違い上下方向に水を使う楽しさを感じました」

シンクロの選手になるためには、クロール、平泳ぎ、バタフライ、背泳ぎの4種目を泳げるということが条件。「大変だなあ

と感じ始めたのは世界の大舞台に立つようになってから」と言う鈴木さんが経験した五輪では、「アテネ五輪のときは、日の丸を背負う大変さは先輩たちが抱えているだけで、チームの一番下という立場で入った私は、ただついていくだけでよかったのです。でも、北京五輪のときは日の丸の重さを感じましたね。デュエットでは銅メダルでしたが、チームでメダルが取れず、7大会連続メダル獲得を実現できなかったことには責任を感じています」と、立場とともに考え方も変化してきた。

家族との強い絆も支えになったようだ。ともにプロゴルファーで多忙な父と長兄も、北京五輪では会場に駆けつけた。「家族全員揃って応援してくれたのが嬉しかった」と、仲の良さが伝わってくる。

「人の一生分以上も水に入っていて、シンクロのことだけを考えてきたので、今は少し水から離れて、シンクロと同じくらい夢中になれることを探していきたいと思っています」

昨年9月に引退を表明し、現在はイベント、講演会などで活躍。休むことなく練習してきた鈴木さんにとって、いまは充電期間といえる。

日本はシンクロの歴史が古いだけに、選手達のメダルへの執着心は強い。そして、ともに闘ってきたチームメイトやコーチとの絆については、「私達を本気で指導してくださる金子先生のために、チームが1丸となつて、絶対に勝たせたいという思いがありました」と振り返る。

10歳のときから師事している金子正子（現・財）日本水泳連盟理事・シンクロ委員長）コーチとは、「親よりも私のことをご存じの方」と表現するほどの信頼関係。また、チームメイトについては、「練習はきつちりする。でも、終わったら先輩後輩はなく、心底語り合えるメンバー」と、周囲の人々にも恵まれた。

「メンバーのほか、曲を作ってくださる方、水着にスパンコールを付けてくださる方など、聴くもの着るもの、すべてに協力してくださる方々がいて、私達が舞台に立っている。一人で闘っているのではないいつも感じていました」

「私は小学生の頃から五輪選手になるのが夢で、諦めずに続けてきたから夢が叶いました。決して才能があったわけではありません。中学・高校のときは友達と遊べないことがつらくて、辞めようと思ったこともありました。金子先生から「シンクロは誰にでもできることじゃない。限られた人しか経験できない」と言われたことが自信になり、続けてこられたのです」

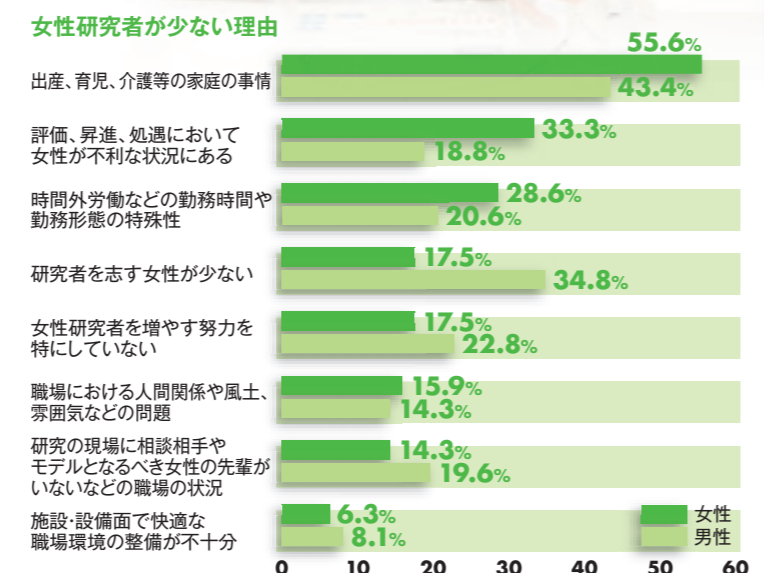
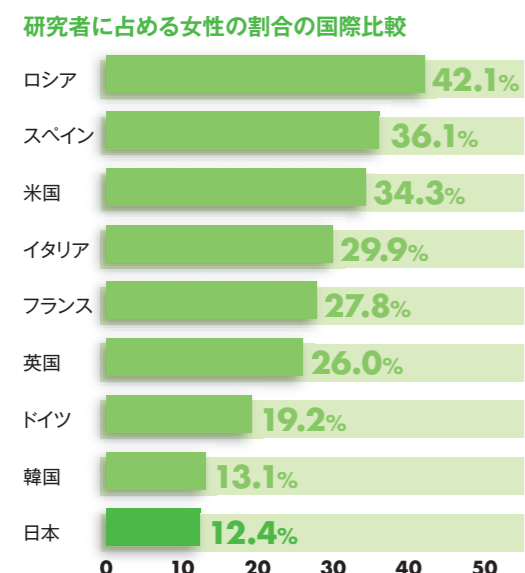
幼少の頃、市役所の水の流れる階段で遊んでいたという鈴木さんは、日本を代表するシンクロ選手に成長。そこには、夢を諦めなかつた忍耐強さと、周囲の人々の支えがあった。一つひとつの言葉に誠実さが感じられるのは、鈴木さんが常に人に対して感謝の心を持っているからだ。新しい夢に向かって、ゆっくりと歩き出すように感じている様子が伝わってきた。

女性 のチャレンジが 社会を元気にする!

～科学技術者の「芽」を育てるさまざまな取組～

昨年、日本人4人が物理学・化学分野でノーベル賞を受賞したことが話題になりましたが、我が国の女性の科学技術研究者の割合は、欧米の国々と比べまだまだ低いものとなっています。仕事と家庭の調和はもちろん、研究機関などが女性のチャレンジをさらに支援することが重要です。

そこで今回は、科学技術分野における女性のチャレンジ支援について、積極的に取り組んでいる教育機関を取材し、将来を期待される「研究者・技術者の卵」たちの育成についてレポートします。



【備考】出典等詳細については、下記URLを参照
(<http://www.gender.go.jp/honbu/20040803.pdf>)

【備考】文部科学省「我が国の研究活動の実態に関する調査報告」(平成17年度)より作成